

## 「地域クラブ活動の円滑な推進に関する市民会議」について

### 1 市民会議について

#### (1) 概要・目的

地域クラブ活動の現状を的確に把握し、令和9年9月の本格実施に向けた準備を円滑に進めていくため、生徒や保護者、学校、スポーツ・文化芸術活動、地域コミュニティ、経済界といった様々な当事者が一堂に会し、課題の共有や意見交換を行うプラットフォームとして設置

#### (2) 構成員等

構成員14名、オブザーバー1名（資料1のとおり）

※生徒については、第2回会議より出席予定

#### (3) 会議の位置づけ

市政運営上の会合

### 2 第1回会議について

#### (1) 開催日時

令和8年5月27日（木）17:00～18:00

#### (2) 場 所

小倉北区役所 東棟8階 812会議室

#### (3) 出席者

構成員13名、オブザーバー1名

#### (4) 議 題

- ・北九州市における現状と取組について
- ・国の動向について（スポーツ庁地域スポーツ課 課長補佐より説明）
- ・意見交換

#### (5) 主な意見

資料2のとおり

### 3 今後の開催予定

夏から秋にかけて複数回実施

## 地域クラブ活動の円滑な推進に関する市民会議 構成員一覧

(敬称略、順不同)

| 分野            | 氏名            | 所属                        |
|---------------|---------------|---------------------------|
| 学識経験者         | 高田 俊也<br>【座長】 | 九州共立大学スポーツ学部教授            |
|               | 大島 まな         | アジア女性交流・研究フォーラム理事長        |
| 学校・部活動<br>関係者 | 菱谷 恒一         | 北九州市中学校長会長                |
|               | 石川 隆之         | 北九州市中学校体育連盟会長             |
|               | 三浦 豊          | 北九州市中学校文化連盟会長             |
| 生徒            | (都度選任)        | 北九州市立中学校代表生徒              |
| 保護者           | 穴井 秀和         | 北九州市 PTA 協議会会長            |
| 地域クラブ         | 上村 英樹         | 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会<br>理事   |
| スポーツ団体        | 園田 美恵子        | 北九州市スポーツ協会事業係長            |
| プロスポーツ        | 下田 功          | ギラヴァンツ北九州普及事業本部<br>本部長    |
| 文化団体          | 佐々木 和古        | 北九州文化連盟理事                 |
| アーティスト        | 森山 陽介         | 北九州音楽協会常任理事<br>(プロチューバ奏者) |
| 地域            | 神田 摩耶         | 白野江市民センター館長               |
| 経済            | 梅林 繁喜         | 北九州商工会議所総務企画部次長           |

(オブザーバー) 三浦 隆宏 北九州市総務市民局長

※このほか、行政説明のためスポーツ庁の担当者が出席する場合あり

## 第1回地域クラブ活動の円滑な推進に関する市民会議 主な意見

- ①地域クラブ活動の推進は、子どもたちの選択肢が広がる取組みであり、素晴らしい。  
一方で、指導者の確保や保護者負担といった課題がある。
- ②総合型地域スポーツクラブとして受け皿となるべく活動しているが認知が進んでいない。  
部活動がなくなるのではないかという保護者の声も聞く。
- ③子どもたちのためにという視点で、わかりやすく方向性を示すことが大事である。  
保護者、教職員、地域への周知、理解促進が必要であり、そのためのツールの検討をお願いしたい。  
また、地域クラブからも指導者や練習方法などの情報発信が必要ではないか。
- ④文化系の活動については、市民団体が受け皿になれば、団体や学校の楽器を使い、活動ができる。  
文化系の活動をどう広げていくか、地域を巻き込んで文化継承できるよう考えていくべき。
- ⑤地域には、人材、経験を持った人が多くいる。そうした人材、資源を生かして活動機会を確保できる仕組み、家庭環境に左右されず参加できる仕組みを構築すべき。